

## 平成21年度第11回 下山地域会議 会議録

【日 時】平成22年2月18日(木) 19:00～20:10

【場 所】下山交流館第11会議室

【出席者】委員 13名出席 2名欠席

事務局 加藤支所長 原田 西山 鶴田 加藤

【次 第】1 あいさつ

2 会議録署名委員指名

3 前回会議録の承認

4 協議事項

(1) 提言・提案内容の検討について

(2) 平成22年度のわくわく事業の要綱について

(3) 定住勉強会(2/12)のふりかえり

5 今後の予定

定住(伊那市高遠町)視察

3月2日(火)7時半出発

平成21年度わくわく事業報告会

3月20日(土)9時より 下山交流館多目的ルーム

---

### 【内 容】

#### 1 あいさつ

(会長)こんばんは。過日、定住の勉強会があり各地域から沢山の方に参加していただいた。率直な皆さんの話を聞くうちに、年寄りをいたわり、若い子達が帰ってきて嫁さんをもらい子どもを産んで育てる、ここが基本かと話を聞いてつくづく感じた。できることからしていかないと自分なりに考えている。次の方にスムーズにバトンタッチができるよう、最後までお願いします。

(支所長)次に引き継ぐための確認などをする会となりますので、よろしくお願いします。

#### 2 会議録署名委員指名

#### 3 前回会議録の承認

全委員承認

#### 4 協議事項

(1) 提言・提案内容の検討について

(事務局)前回の会議をもとに修正をした。要望の部分は、内容は変えず、分かりやすい文章に変更してある。提案1の部分は変更がない。提案2の解決策の最初に、活動促進するためのマップの作成、最後の部分に農林地の保全を付け加えてある。提案3も変更がない。

(会長)最終案で、今日で決定とする。ご意見のある方は。

異議なし。

決定。

(2) 平成22年度のわくわく事業の要綱について

(会長) 平成22年度わくわく事業募集要項の決定をする。

(事務局) 前回、要綱を検討いただき、別表1の中で賄い材料費で食べ物は不可、継続費に関する部分で使用料、賃借料で、原則、例年開催される事業に対する賃借料は5年を限度とすると決めたので、付け足した。募集期間を3月からとしてあったが、わくわくの要領の中に4月1日からの申込となっているため、支所だよりの掲載は3月15日号に掲載をし募集要項の配布は3月15日から行うが、申請の受付期間のみ4月1日から変更させていただいた。例年、募集案内は3月中に持っていくが申請は4月過ぎてからのため、問題はないかと思う。

(会長) 前回の修正後、最終確認となる。よかったですでしょうか。

委員了承。

(3) 定住勉強会(2/12)のふりかえり

(会長) 定住勉強会に参加された方から、地域会議で出なかった意見などを情報提供してください。

(委員) こういう話し合いをしても、働く場を作らないといけないと強く言われた。働く場がないから若い子が来ない、若い従業員を確保しようとしてもできないというのが印象に強く残った。お役が大変など同じような意見が出ていた。若いと言われている人達の受取り方が違って、花山の方だと20代・30代。定年してからが若い衆という地区もある。地区によって捉え方が違うということも強く残った。

(委員) 大沼の辺りの話を始めて聞き、家はあるが豊田や岡崎に出ているので、売る、貸すなどしていいかと聞くと、定年したら戻ってくると言われる。どうにもできず空家のままで年寄りばかり戻ってきても、という意見ばかりではなく、それならそれでいいじゃないかと。定年になってから、戻って暮らせる下山でも良いじゃないかという施策があってもと言われる方もいた。どちらにしたらいいかはわからないが、いろんな意見があるのだと思った。半分以上が地域の人ではない所と、地域の中のほとんどの人がそこの地域で生まれた人という所とでは、まとめりが全然違い、組費を集めること自体も躊躇して、もらわないなどの話も聞いたので、地域によって全然違うと思った。

(委員) 組長を対象にしたアンケートで話をしたので、お役に対する話が多かったように思う。地域によっては、若い人もいるから今までどおりお役もやっていける。だいたいどこも若い人がいなくてお役が大変、続けていけないのではないかという意見が多く、引っ越してきた方も積極的にそういうことに参加してもらえる人も、嫌で参加してもらえない人も、それぞれの地域でいろいろな現状を話し合うワークショップだった気がする。どこも高齢化が進んで、10年後は続けられるかどうか心配だということが多かった気がする。

(委員) アンケートには組長の個人的な意見が多分に入っていたのではと。アンケートは地区の意見をそのまま反映しているわけではないと思った。これから地域に入って、本当の地域がどう考えているのか、考えていないのか探っていくのが、これからの仕事の1つかなと感じた。

(会長) 働く場がなければ住まない。地域によって差がある。高野や阿蔵の方が、朝雪かきをしないと会社に行けない、お役も6組位でやっている、と切実な話だった。花沢の方は、ちょうど50代位がそろっているから、お役も困らないし遊び相手も話し相手もいるから困らないと聞いた。小松野の方では働ける年代はいるが、役員は出てくるが役員以外は出てこないと各地域によって違った。1つひっかかっているのは、定住は全域の人が背負っている課題であって定住と言う名の下に旗を振りかざされても、その後詳しくは言われなかったが、家庭ごとの事情など話し合いをしながら思いを起こしていかないと、どんどん形ばかり進めても納得していただけない。丁寧にしていけないといけないと思うので、今後取り組む時には考慮してほしいと思った。

(委員) 組長をしているが、自分は地域外に家を買ったため、こういう所に出てきても話ができないという方もいた。立場によっては、やれない方もいるので考慮しなければいけないと思う。野原地区の方は、もっと話を上の方から具体的に持ってきてくれば対応しないこともないが、ワークショップでやっても具体的な話はせず、同じ様な話ばかりになってしまうのではないかと、という意見もありました。上からくると抵抗のある人もいるので、自分達の意見として考えていかなければいけない時間も必要だと思うと伝えたら、田平沢地区の方で、そうだと賛同してくれた。勉強会に、もう出ないというのと、自分達で考えたいというのと二分化していくと思う。

(委員) 働く場がないという話の延長ですが、日発も倉庫になったが、下山の出身者が働いている工場と同じ会社の中にあり、下山に工場があるから、そっちで働けと言うと、おじさんやおばさんがうるさく、そんな所では働きたくないという意見がある。しばらく前から下山の従業員はいなかったと聞いている。工場を作ろうと思った時に、そこで就労できる人が何人くらいいるのか、考えるといない。工場を持ってきて稼働しないのでは出てこられないという背景がある。そういう面では働き場を増やすのは難しいと思う。農山村工業振興で行う時代とは違う。地域に違いがあるのは当然で、同じ土俵で同じ様にやるのはやるべきでもないし、できない。定住促進事業も、その地域がその地域の中で行うのが、その地域に一番あった方法を手伝ったら良いのかと思う。地域の人の考えることのお手伝いができたら良いと思う。

(委員) 企業が小さな団地を作り若い人が入り、部落が了解したわけではないけれど若い人が増えて、結果的に町が活性化していく。部落が話し合っただけより、団地ができると簡単に若い人が入る感じがする。いろいろ考えると、それが早いと思う。

(委員) 転ばぬ先の杖か転んでから立ち上がる杖のことを考えるのか、転んでしまっただめだが、ヨチヨチ歩きで足がもたついているが何とかするのはないかと安易な考えが自分自身にある。そこを切実に考えることが必要。例えばグループホームではなく、近所でも高齢者夫婦という方が多いが、一人になれば息子の所に行く、できれば行きたくないというのが大方の意見。一人になった人が、どういう形でここで暮らしていくかと考えた時に、長男長女を連れてくるのが無理なら、血縁じゃない人と一緒に暮らす方法を考えるか、一人になった者同士が共同炊事などで暮らしていくのか、いろんな方法を切実に考える時もあるようだ。考え方に協力させていただくとか、勉強会に出てくるより他の意見を吸い上げる方法はありませんか。具体的な話から下げてこいと言われても地域性があり、その地域にあったことをこちらから示すというのは難しい。

(会長) どこも同じような問題を持っているので、これから勉強しながら考えていく。

(委員) 地域に出張して地域会議が話し合いをすると、聞いたが。

(事務局) 受け入れ条件の整理など事業計画を作る上で、30集落に入ってワークショップをしていくということを地域会議で決めた。地域会議委員も地域からの推薦もあり、地域に根付いて行うには不可欠である。ワークショップの内容を検討したり、自治区の代表者と共に集落で話しあう時に一緒に行く、支援するということになる。

委員了承。

## 5 今後の予定

(事務局) 3月2日に定住視察、伊那市高遠町に支所7時半出発。3月20日わくわく報告会と最後の地域会議。

(会長) 以上で第11回地域会議を終わります。ありがとうございました。